

化学調節による園芸植物のわい化に関する研究

(第2報) 春まき草花について

柏 木 征 夫

(福岡県立園芸試験場)

KASHIWAGI, I.

Studies on Dwarfing of Ornamental Plants by Chemical Control

(2) On the Summer Annuals

前報 (昭47, 園芸学会秋季大会) では秋ギク, テッポウユリおよびカノコユリの伸長抑制にアンシミドール処理が有効であることを報告した。本報告は春まき草花に対するアンシミドールのわい化効果について検討した。

材料と方法 供試作物としてアサガオ“春の香”ほか8種類9品種の春まき草花を用い, 4月30日には種, 5月15日に12cm鉢に鉢あげして第1表の処理方法に従って処理した。

結果 アサガオでは B-ナイン散布処理の2区が最も短かく, 次いでアンシミドール0.75mg土壌かん注処理の6区となりアンシミドールの茎葉散布処理ではわい化効果が認められなかった。オシロイバナではアンシミドールの土壌かん注処理の各区でわい化効果が認められ, 薬量が多くなるに従って茎長は短くなった。ケイトウでは B-ナイン 散布処理およびアンシミドール土壌かん注処理の各区でわい化効果が認められたが, アンシミドールの散布処理ではわい化効果が認められなかった。コスモスではアンシミドールの土壌かん注処理でわい化効果が認められ, 特に, 0.50mg以上の処理区で著しいわい化

効果が認められた。サルビアではアンシミドール処理が有効であり, ペチュニアでは B-ナインおよびアンシミドールの散布処理でわずかに, また, アンシミドールの土壌かん注処理で20~25%のわい化効果が認められた。マリーゴールドでは2品種ともアンシミドール処理が有効で, 特に, 土壌かん注処理でわい化効果が優れた。コリウス“レインボー”およびわい性ホウセンカ“スペシャル・ドワーフ”では処理による差は認められなかった。ケイトウ, コスモス, マリーゴールドではアンシミドール処理によって開花が遅れる傾向にあった。

第1表 処 理 方 法

区	アンシミドール	B-ナイン	処理方法
1	—	—	
2	—	0.4%	茎葉散布
3	50ppm	—	“ ”
4	0.25mg/鉢	—	土壌かん注
5	0.50 “	—	“ ”
6	0.75 “	—	“ ”

第2表 開花日および開花日における茎長

区	アサガオ		オシロイバナ		ケイトウ*		コスモス		サルビア*		ペチュニア*		マリー・ゴールド					
	春の香				レッド・ホックス		ディアボロ		ボンファイアー		ブルー・エンサイン		プ		チ		ムーン・ショット	
	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長	開花日	茎長
1	7.7	50.7	7.12	35.6	7.11	38.0	6.21	48.4	7.4	13.8	6.29	54.7	6.9	12.2	7.17	57.0		
2	7.7	31.1	7.12	35.8	7.11	30.8	6.24	50.9	7.5	14.3	7.1	48.8	6.9	11.1	7.19	36.9		
3	7.7	68.8	7.12	38.6	7.12	36.0	6.21	49.3	7.1	9.5	9.29	50.4	6.8	9.7	7.20	37.4		
4	7.9	42.2	7.12	36.6	7.13	32.6	6.24	30.0	7.3	7.9	6.27	45.1	6.9	8.5	7.22	37.0		
5	7.9	45.3	7.13	33.4	7.14	30.5	6.25	24.5	6.30	6.6	6.30	41.1	6.12	7.6	7.25	37.9		
6	7.9	34.3	7.12	26.9	7.13	32.9	6.25	23.5	7.3	6.7	6.30	42.0	6.11	7.0	7.25	36.6		

注) 処理日: 5月22日, *のみ6月5日